

ぴちインフォ <生化学検査 Part2> 2006・10

疾患の診断や経過観察に行われる血液検査・生化学検査は、服薬治療等による副作用の有無（各種臓器機能障害）を確認する上でも重要な検査です。通常2～3ヶ月に一度行われます。

“血液検査を受けたけど、測定値の見方が分からない。”という方の為に、よく行われる検査項目について、前回に引き続き簡単にご紹介致します。

基準値は、測定方法や検査施設によっても微妙に異なります。お手元にある検査結果に記載されていますのでご確認ください。基準値内かどうかで一喜一憂するのではなく、検査データを総合的に判断する事が大切です。不明な点は医師・薬剤師に積極的に質問して、治療にお役立て下さい。

検査項目	日本語名	検査概要
WBC	白血球数	好中球・好酸球・好塩基球・リンパ球・単球などからなり、感染症等により上昇。その割合から、疾患の推定可能（血液・内分泌・代謝・アレルギー性疾患や単核症等）。
RBC	赤血球数	血液中の赤血球の数。多血症で高値、貧血症で低値を示す。
HGB	ヘモグロビン	赤血球に含まれている血色素量。多血症で高値、貧血症で低値を示す。
HCT	ヘマクリット値	血液中の赤血球の容積割合。多血症で高値、貧血症で低値を示す。
MCV	平均赤血球容積	赤血球の大きさを表す。大赤血球症で高値、小赤血球症で低値を示す。
MCH	平均赤血球色素量	赤血球に含まれるヘモグロビン量。鉄欠乏性貧血で低値を示す。
MCHC	平均赤血球色素濃度	赤血球の中にあるヘモグロビンの濃度。鉄欠乏性貧血で低値を示す。
レチコ	網状赤血球数	未成熟赤血球数。溶血性貧血等で増加し、再生不良性貧血等で減少する。
PLT	血小板数	止血機能の指標。多血症等で高値、紫斑病・再生不良性貧血等は低値。
FIB	フィブリノーゲン	血液凝固の第Ⅰ因子で、止血機能の指標。紫斑病・血友病等で低値を示す。
PT	プロトロンビン時間	プロトロンビンは血液凝固の第Ⅱ因子で止血機能の指標。紫斑病・血友病・肝障害・胆道閉鎖症・ビタミンK欠乏症等で、凝固に要する時間が長くなる。
APTT	活性化部分トロンボプラスチン時間	同上。 血友病の診断に欠かせない検査。
ALP	アルカリホスファターゼ	肝臓や胆管の疾病、骨疾患や副甲状腺機能亢進症で高値を示す。
TTT	チモール混濁反応	慢性化する急性肝炎・閉塞性黄疸・甲型肝炎硬変・多発性骨髄腫等で高値を示す
ZTT	硫酸亜鉛混濁試験	慢性肝炎・肝硬変・膠原病等で高値、閉塞性黄疸・糖尿病等で低値を示す。
LAP	ロイシンアミハプチダーゼ	肝炎・肝硬変・脂肪肝・胆汁うっ滞・胆道疾患で高値を示す。
CHE	コリンエステラーゼ	ネフローゼ・高血圧症・脂肪肝等で高値、肝硬変・慢性肝炎・悪性腫瘍等で低値。
CK (CPK)	クレアチンキナーゼ	心筋梗塞・筋ジストロフィー等で高値、エリテマトーデス・甲状腺機能亢進症等で低値。